

地域IoT実装推進タスクフォース（第3回）議事録

1. 日 時

平成28年12月8日（木） 16:00－16:45

2. 場 所

総務省7階省議室

3. 出席者

(1) 構成員

須藤座長、安達構成員、飯泉構成員、國領構成員、小林構成員、佐藤（賢）構成員、佐藤（昌）構成員、関（幸）構成員、関（治）構成員、園田構成員、田澤構成員、米田構成員、三谷構成員、米良構成員、山内構成員、横尾構成員

(2) オブザーバー

伊藤内閣官房IT総合戦略室参事官補佐（向井内閣審議官の代理）

山下文部科学省生涯学習政策局情報教育課係長

三上厚生労働省政策統括官付情報化担当参事官室室長補佐

北川農林水産省大臣官房政策課技術政策室課長補佐

(3) 総務省

高市総務大臣、あかま総務副大臣、金子総務大臣政務官、太田総務大臣補佐官、福岡総務審議官、山田官房長、谷脇情報通信国際戦略局長、富永総合通信基盤局長、今林政策統括官（情報通信担当）、吉岡大臣官房審議官（情報流通行政担当）、猿渡大臣官房審議官（地域情報化担当）、今川情報流通振興課長、加藤地域通信振興課長、吉田地方情報化推進室長

4. 議 事

(1) 開会

(2) 議事

①地域IoT実装推進ロードマップ（案）について

②ロードマップの実現に向けた第一次提言（案）について

③その他

(3) 閉会

5. 議事録

【須藤座長】 定刻となりましたので、これより地域 I o T 実装推進タスクフォース第 3 回の会合を開催させていただきます。皆様には、ご多忙のところ、ご参集いただきましてありがとうございます。

議事に入ります前に、構成員の変更についてご報告いたします。市原健一構成員がつくば市長を退任されましたことに伴いまして、全国 I C T 教育首長協議会——首長というのは首長です、首長協議会会長をお務めになられています、多久市長の横尾俊彦様に、本日より構成員としてご参加いただきます。

横尾市長、自己紹介をお願いいたします。

【横尾構成員】 改めて、こんにちは。ただいま、座長の須藤先生からご紹介がありました、多久市長の横尾と申します。市原市長さんが、つくば市の市長さんでございましたけれども、ご退任ということで、I C T 教育の全国的な展開・充実をぜひやっていこうというメンバー百数名で立ち上げた協議会がございまして、その会長になりましたので、かわってご参加をさせていただくことになりました。

私どもの市には孔子廟がございまして、知性、ガバナンスも教えた 2,560 年ぐらい前の大先輩でございますが、そういった思いも体しながら、近未来に向けての I C T、またこの I o T の活性化や活用に向けて微力を尽くしたいと思っております。

公私とも、よろしく願いして、ご挨拶にかえたいと思います。以上です。

【須藤座長】 どうもありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

それでは早速、議事を進めてまいります。これまでご議論いただきましたロードマップにつきまして、今回、地域 I o T 実装推進ロードマップ案として取りまとめておりますので、まずは事務局よりご説明をお願いいたします。

【加藤課長】 説明申し上げます。

ロードマップ案につきましては、事前に構成員の方々に送付ないしお渡しいたしまして、意見をお聞きいたしながら、調整してまいりました。かなり大部にわたりますので、簡潔に説明させていただければと思います。資料 3-1 と並びに 3-2 をごらんいただければと思います。基本的に 3-1 に基づきまして説明させていただきまして、3-2 が本体でございますので、これも適宜ご参照いただければと思います。

3-1、1 ページですが、ロードマップ策定の背景ということでございます。これは初回等に説明させていただきましたが、地域をめぐる課題がある。それに対しまして、I o

Tがもたらす可能性があるということで、これによって課題解決を図れるのではないかと
いうことをごさいます。ただ、その実装には課題があるということで、関心はあるんです
けれども、なかなか行動に移せていない、そういう地域がたくさんあるということござ
います。その課題を乗り越えて実装を進めていく、そのための具体的な道筋ということで、
このロードマップを策定を期しているということをごさいます。

次の2ページをごらんいただきたいと思います。ロードマップ策定に当たりまして、ポ
イントとして3つ掲げさせていただいております。

まず1つ目ですが、分野別モデル、それぞれ分野を分けまして、その分野に対しまして、
生活に身近なそれぞれの分野に対しまして、高い効果・効用が見込まれるモデルを「分野
別モデル」として1ないし3設定しましょうということをごさいます。

ポイント2といたしまして、そのモデルに対しまして、2020年度までにK P I、具体的
な達成すべき目標を指標として設定しましょう。その達成のための道筋を明らかにしてい
きましょうということをごさいます。

3は、それだけでは個別の指標だけでは、なかなか全体像がわかりにくい、全体のイメ
ージ、達成イメージがわかりづらいというふうなこともございますので、地域の将来像、
経済効果を提示というふうなものも試みようということをごさいます。

次に3ページをごらんいただきたいと思います。I o T実装の分野別モデルというふう
なことで、分野はここにあります7分野、右下の基盤も入れますと、合わせて8分野にな
りますが、それぞれごとにここにありますような分野別モデルを掲げさせていただいてお
ります。左上、教育ですと、教育クラウド・プラットフォーム、プログラミング教育、そ
の右の農林水産業でございますと、スマート農業・林業・漁業モデル、地域ビジネスでま
いりますと、マイキープラットフォーム等々を掲げております。

それにつきまして、さらに次の4ページです。それぞれの分野ごとに概要抜粋をここに
掲げさせていただいております。それぞれの分野ごとに書いてございますが、例えば、左
上の教育、黄色の部分の教育でございますと、実装の効果ですね、教育クラウド・プラッ
トフォーム、プログラミング教育によります教育の質的向上・格差是正を図るということ、
そのK P Iでございますと、クラウドを利用したプログラミング教育を実施可能な学校を
100%にしていく。それぞれ工程につきましても、標準化、実証、そして整備促進というこ
とで、できるところにつきましても、年限も含めて示させていただいております。

同様に右側、もう一つ例を挙げますと、プルジャンブルーのような色でございますが、

農林水産業の部分でございますが、スマートモデルによります軽労化、省力化、生産性向上等といった効果、そしてK P Iとして実装地域300、工程表としてはガイドラインの策定、その普及で優良事例の創出と補助、普及展開の促進ということでございます。

これだけだと、非常に文字情報で平板でございます恐縮でございます。本体の資料3-2の資料を、ちょっとごらんいただきたいと思います。3-2の資料のまず2ページにA3の大きな資料をつけてございます。ロードマップの全体像ということでございまして、ここにもうちょっと、それぞれ分野別モデル、さらにその工程の工程表、そしてK P Iという形で、やや立体的にイメージがつかめるような資料を掲げさせていただいております。

その後ろにロードマップの本体を、それぞれの分野ごとにつけさせていただいております。これはすべてご紹介するいとまはございませんが、それぞれ4ページを見ていただくと、まず教育の部分のロードマップを掲げておりまして、先ほどご紹介いたしました、これをさらに詳細に落とし込んだものです。効果、指標、実施主体、支援体制、工程等を記載したものを掲げさせていただいておりますので、詳細はこちらをご覧くださいと思います。

あとこの資料につきましては、モデルの関連の資料等もつけさせていただいております。何ページかおきに、それぞれの分野別のロードマップが出てまいります。医療ですと12ページ、さらにその後、数ページおきに出てまいります。個別には言及は控えさせていただきます。

次に3-1へ戻りまして、5ページでございますが、今3-2で、A3の資料で全体像ということで言及させていただきましたが、なかなかこれですと、文字上、情報も多くて、ちかちかしてわかりにくいということがございまして、今度5ページに2020年度までの工程をイメージで示させていただきました。

横軸が2020年度までの年度、時間的な推移、そしてさらにそれから普及なり、実装が進んでいくという横の広がりをあらわしております。縦軸のほうでございますが、定性的に進捗度をあらわしている。いろいろなモデルごとに実証段階、標準化をどう図っていくかという段階、実装の段階とありますが、それぞれに、まだ状況が分かれているところがございますので、そこをあらわしております。

左側の2016年の段階では、それぞれのモデルの段階をプロットとして落とし込んでおります。これをなるべく早急に、この青の矢印に乗せて、右上のほうに、右肩のほうに進捗

してくようなイメージで考えております。薄紅色の部分は、青の部分にランクアップして、そして青の部分も強力に展開していくというふうなイメージで捉えているというところがございます。

【今川課長】　　続きまして、資料3-1の6ページ、7ページをご説明させていただきたいと思っております。

地域IoT実装に伴いまして、地域がどういうふうに変わっていくのか、そういったものを、このロードマップと合わせて示すべきじゃないかというご議論がございましたので、それを踏まえて載せているものでございます。資料3-2の先ほどのA3のロードマップ全体像の右側のほうに、各分野別に具体的な効果というのが、分野ごとに書いてございます。それから、政策目標というのが右側にございまして、この辺のところを、少しイメージしやすい資料をとということでございます。

この6ページのほうは漫画が並んでおりますけれども、須藤座長のほうからも各分野ごとの効果だけじゃなくて、それをマトリックス的に組み合わせたようなものを示すといいのではないかということでございましたので、この6ページの地域の将来像では、その分野を組み合わせたようなイメージ図を示させていただいております。

例えば左上ですと、テレワークをする絵とアクティブラーニング、教育クラウドを活用しアクティブラーニングの絵が組み合わせたようなものになっておりまして、テレワークをしながら、子供たちは学校でこうったことも可能になるというようなイメージを示しております。左下でございますと、スマート農業と地域ビジネスの活性化のモデルを組み合わせたようなもの、右上でございますと、Lアラートというのを活用しました、災害情報伝達、それから避難所でのヘルスケア、こういったものを組み合わせたイメージ、さらには、右下では観光クラウドと自動翻訳を組み合わせたようなイメージ、そういったものを掛け合わせて、この地域IoTが自治体隔々まで広がっていくと、例えば、こういうような世の中になってくるよということを示したつもりでございます。

それから次の7ページでございますが、先ほどの絵は定性的なイメージでございましたが、定量的な効果もイメージとして示すべきではないかということで、経済効果の試算をさせていただいております。地域の生活に身近な分野、7分野を取り出しまして、こういったもので、地域の実装がもたらす効果、経済波及効果全体としては、4.9兆円、それから雇用としては45万人ぐらいが生み出せるのではないかと。そのうちICT分野は1.1兆円の投資増加、5万人の雇用創出というようなものが図られるのではないかとというような数字の

イメージを示しているものでございます。

この計算方法は産業連関表という手法を用いまして、その下にございます7分野ごとに既存の市場規模予測などを活用いたしまして、それにちょっとテクニカルになりますが、逆行列係数ということを掛けまして、関連する産業でどれだけ生産が誘発されるかといったものを計算しまして、それを足し上げる。さらに雇用がどれだけ誘発されるかといったものを計算しまして、足し上げるというような手法をとっているところでございます。

市場規模につきましては、あまり盛りだくさんで膨らむのもどうかということで、例えば医療・介護・健康というのがございますが、ここでは地域IoTの分野別モデルとしまして、EHRとPHRというのを取り出しておりますので、EHR・PHRに関連する市場規模予測を探してまいりまして、その市場規模を使っているということでございまして、例えばこれに関連するような4K・8Kを活用した場合の市場規模とか、そういったものは、ここには盛り込んでおりません。そういう意味におきまして、このロードマップを順調に実行していった場合に、このロードマップに関連して派生するような効果、モデルから直接生まれるようなものもございまして、その外縁の部分も含めてとなりますが、できるだけ、このロードマップに沿った形での経済効果というのを、できるだけつつましく計算したようなつもりでございまして、大体5兆円ぐらいの効果が得られるということを示しているものでございます。

8ページはその辺の前提、試算の前提でございまして省略させていただきます。以上簡単でございますが、資料3-1の説明させていただきました。

【須藤座長】 よろしいでしょうか。どうもありがとうございます。

ちょっとご質問ですけれども、最後の産業連関の効果です。これは1次効果まで、経済効果、2次効果までとったんですが、1次効果で終えているんですか。

【今川課長】 1次、2次全部込みでやっています。

【須藤座長】 2次までいっているんですね。

【今川課長】 はい。

【須藤座長】 結構拡大的な形ですね。わかりました。ありがとうございます。専門なものですから、つつい聞きたくなくて。ありがとうございます。

それでは、これからですけれども、構成員の皆様には事務局より事前のご説明をいただいております。意見もいただいております。その上で、この案が作成されております。本ロードマップ案につきましては、時間が限られておりますので、こちらからご指名をさせてい

たきますけれども、地域実装の主要な実施主体でいらっしゃいます、自治体の首長でいらっしゃいます、山内構成員にこのロードマップを受けて、何か一言いただけますでしょうか。

【山内構成員】 山内です。

我々、特に離島においては、今回のロードマップ案を見せていただいて、まだまだこれから生かしていかなければいけない問題があります。現実には私どもでは大きくは教育と産業。教育分野では、中学校の放課後学習においてインターネット遠隔授業を現在導入しており、また産業分野では東京銀座をはじめ、都内に7店舗17台のディスプレイを置いて岩ガキや白いかを獲っている風景など臨場感のある映像を配信し、安心安全の提供、購買意欲の向上などを図っております。正直申し上げまして、その効果もあって、今日的にはC A S商品の通信販売の成功につながっています。私は今、三セクの社長を兼ねていますが、これまで7期連続黒字で、水産の岩ガキと白いかをメインに、今では外国にも出し、香港、シンガポール、ドバイ、そしてニューヨークではすし屋さんにも出しています。まさにこれはメディアを使った、一つの宣伝効果のあらわれではないかと思っています。

【須藤座長】 どうもありがとうございました。

特に経済面を強調していただきましたけれども、改めてご紹介しておきますけれども、海士町は辺境からの日本のイノベーション、学校を核とした地域創生のスケールアウトということで、島根県の教育長は鴨木氏ですけれども、教育委員会と連動して、今、海士町は相当な動きをとられています。東京大学とも協力関係を結ぶことになりましたので、私が今、センター長をやっている組織ですけれども、いろいろご協力をすると同時に海士町に教員を連れてゆきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

どうもありがとうございます。それでは、構成委員の皆様、本ロードマップ案について、既に事前のご意見を伺っておりますけれども、ご了承いただけますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【須藤座長】 どうもありがとうございます。

それでは、ただいまご承認いただきましたロードマップに記載された目標を着実に達成するためには、具体的な推進方策を同時に社会に提示し、これを力強く進めていくことが不可欠になります。そこで、本タスクワークの構成員の総意として、ロードマップの実現に向けた、第1次提言を取りまとめましたので、私よりご紹介させていただこうと思いま

す。これは資料3-3をごらんいただきたいと思います。5分ばかり説明をさせていただきます。その後、何かあれば、また補足あってもよろしいかと思っておりますけれども、よろしくお願いたします。それでは資料3-3をごらんいただきたいと思います。

まず1ページ目の第3パラグラフのところをごらんいただきたいと思います。ここは導入の部分、提言の導入部分です。1ページ3段落目ですけれども、このたび、地域IoT実装推進ロードマップが取りまとめられましたけれども、ロードマップを実現するためには、具体的な推進方策を同時に社会に提示し、強い実行力を持って、これを進めていくことが不可欠になります。そこで本タスクフォースはロードマップの実現に向けた、第1次提言を取りまとめました。総務省におかれましては、必要な予算等の確保を図るとともに、できるものから早急に実行に移し、検討を深めるべきものについては、その検討を加速し、速やかに具体化を図ることを求めたいとしております。

2ページ目をごらんいただきたいと思います。早急に推進すべき事項でございます。2ページの提言の具体的な内容です。まず早急に推進すべき事項として、関係者による推進体制をしっかりと構築していくことが必要であるという、これまでの議論を踏まえまして、IoTの実装を確実なものとしていくために、地方自治体、関係団体、それから民間企業等が、さまざまな形で連携して、一丸となって取り組んでいく必要がございます。このため、総務省においては縦、横、斜めの総合的な推進体制の確立に向け、早急に行動を開始すべきであるというふうにしております。

まず具体的には第1点目といたしまして、各分野の機運を高める縦の糸ということで、各分野の主要なプレイヤーがロードマップの主たる分野ごとに関係する府省、団体等を中心としました推進体制を確立すべきであります。

第2点目として、地域間の競争を進めるため、横の糸ということで、すぐれた成果等を全国の地域へと波及させていくことが必要であります。そのため、官民連携の全国ネットワークと地方自治体間の情報連携体制を構築すべきである。

第3点目として、分野横断的に地域を紡ぐ斜めの糸ということで、地域ごとに分野横断的にさまざまなステークホルダーが一丸となって取り組みを進めていくことが重要になります。そのため、地域ごとに民産学官の緊密な連携を実現する体制を確立すべきであるというふうにしております。

3ページ目になりますけれども、今後、検討を加速すべき事項についてです。本タスクフォース及び2つの分科会においては、ロードマップを円滑に実現するための基盤となる、

地域における自律的実装、それからICT人材の確保、それから地域資源の有効活用のあり方について議論を進めてまいりましたが、ロードマップが取りまとめられたことを受けて、総務省におきましては、その検討を加速させ、速やかに具体化を図るべきであるとしております。

具体的には1番目として、地域における自律的実装のあり方について、国や地方自治体による財政等の支援と同時に、地域による自律的、持続的な運営の仕組みの確保が重要となります。よって各府省、それから地方、民間による多角的かつ持続可能な支援メニュー、それらを円滑に利用できるようにするための方策について、整理・検討を加速させるべきであります。

2番目として、ICT人材の確保のあり方として、地域人材の育成・活用を促進する方策及び地域外の人材を活用する方策について検討を加速させるべきであります。

3番目でございますけれども、地域資源の有効活用のあり方として、地域におけるデータ利活用やシェアリングエコノミーの有効活用について、行政機関の主体的な取り組みを促進するための方策、それから行政・民間が連携して具体的な取り組みを進める仕組み等について、検討を加速させるべきであるというふうにしております。

最後にフォローアップです。4ページ下段のフォローアップのところをごらんいただきたいと思っております。ロードマップの進捗のフォローアップを行い、その状況に応じて、ロードマップを最初の原理に、あまりにもこだわる必要はないと思っておりますから、その都度、実現可能性を追求、フィージビリティを考えて、改訂及び施策の改善を図っていくべきというふうにしております。

我々としましても、提言内容について、今後積極的かつ迅速な議論を行い、引き続き貢献してまいりたいと考えております。以上でございます。

ただいま説明させていただきましたが、総務省への期待、それから意気込み等につきましては、何か補足すべき等がございましたらば、まず意見を伺いたいと思っておりますけれども、最初に飯泉構成員、それから横尾構成員、2人からご意見を伺いたいと思っております。

【飯泉構成員】 ありがとうございます。

今、須藤座長さんのほうから第1次提言申し上げたところであります。やはり一番重要なのは、この3つの糸、いわゆる各分野別の縦糸、また地方公共団体横一横の連携の横糸、さらには地方公共団体のエリア内における地方公共団体、また事業団体、さらには民間の皆様方をつなぐ斜めの糸、ぜひこの3つの糸がばらばらになっては意味がないわけであり

ますので、これを全体を織りなすコーディネート役を、ぜひ総務省に力強く行っていただきたいと思います。

それから第2点目、こちらについては第1回目の会議のときにも申し上げたんですが、どうしても情報通信網というのは、大都市部中心に進んでしまうんですね。ということで、大都市部とそれから地方部、ここがきっちりとうまく均衡していく、あるいは競合・競争関係があってやっていけるような、そうした力強い関係をお願いしたいと思います。

なお、特に横糸の話などにつきましては、今日も全国知事会、私が情報化推進委員の委員長でもあります、またそれぞれ市長会、町村会の代表も構成員におるわけでありまして、このいわゆる地方3団体との連携を総務省の皆さん方には、ぜひよろしくお願いを申し上げたいと思います。

そして今、特に第4次産業革命と言われている、I o T、ビックデータ、A Iと、その中でもこのI o Tの地方への実装、これを進めていただくためにはやはり何といても高市大臣の強力なリーダーシップが必要となりますので、地方創生を織りなすためにも、ぜひここをよろしくお願ひ申し上げたいと存じます。

以上です。

【須藤座長】 どうもありがとうございます。

本日は高市大臣、それからあかま副大臣、金子政務官と、3人先生におそろいいただきましたので、今のお言葉、何とぞよろしくお願ひいたします。

それでは、横尾構成員お願ひいたします。

【横尾構成員】 発言の機会をいただきありがとうございます。

ちょうど今、知事会のほうからもお話があったわけですが、歌謡曲でも糸がはやっていますので、縦、横、今度は斜めも加えて、時期に合っているかなと思いました。ソフトな意味で、いろいろな方が興味を持ってくださる糸の話とつながるところがあるなど感じながら、この原案を拝見したところでございました。

今もお話があったように、このことを進めていく上で、非常に私が重要だと思ったのは、実はこのA4サイズにまとめられたロードマップでございます。というのが、行政はともすると、検討します、やりますと言いながら、どこまでやるかはっきりしない。理由は納期がはっきりしていない。いつまでに何をやるというのがなかなか明確でなかったもので、この近年、特に政府におかれても、K P Iのことですとか、P D C Aサイクルを生かそうということで、特に地方創生着手あたりから加速されていると思っています。ぜひそうい

ったことを明確に掲げておられますので、このことの達成を総務省のみならず、関係官庁とうまく連携をいただき、ぜひ推進をしていただきたいと思います。

特に教育等におきましては、現場の首長さんたちは、その重要性を強く認識しています。しかし最大の課題は予算です。なかなかデバイス一つが単価が高かったり、あるいはデバイスを持ってきても、通信環境を整えなければネットにつながりませんので、非常にロスが出ます。いろいろな課題も当然あるわけですが、ほかの分野でもそうですけれども、さまざまな予算等もありますけれども、ぜひこのロードマップということ、よく明示いただいて、関係官庁との連携のもとに強力に推進していただきたいのが1点目に感じているところでございます。

2点目は、たまたま機会をいただき、この一月の間にシリコンバレーと北京に1泊2日か2泊3日ぐらいで、ちょっと強行な出張をさせていただきまして驚いたことがあります。北京行きの飛行機の中で見た新聞、英字紙ですけれど、折り込みはI o Tに関する特集号でした。現地に着いて大使館の方とか、いろいろな方にお会いしましたが、話題は結構I o TやI C Tに及びました。シリコンバレーでは当然でありました。

直感的に感じたことは、我が国は、ほんとうに気合を入れてやらないと、このままどおけているなという感覚を持ったわけです。そういった意味では、このI o Tのタスクフォースに参加させていただけて、大変、私ありがたいと思っていますし、力の限り頑張らなくてはいけないと思いついたんですけれども、そういう海外の進んだ事例を、積極的に取り入れていただいて、縦横斜めに加えて、この3次元か4次元の糸も加えていただいて、どのように、そこをキャッチアップしていくかということが重要かと思っています。

特に行政におきましては、高市大臣も全国に呼びかけておられる、マイナンバーのカードの普及やマイナンバーに基づく新たな行政の創造があると思います。世界的に見ると、番号制度を活用した国ではエストニアが今、トップランナーとして走っているということ、よく聞きます。その詳細については総務省のほうでも研究されていると思いますが、そういった事例ですとか韓国の事例とか、近隣にもありますので、ぜひそういった自治体の経営がより効率的に、そして市民や住民の皆さんに必要なサービスを迅速・的確・公平・公正にプッシュ型でお届けするような行政になっていけるように、そのことにこのI o Tの実装推進というのは極めて重要とっておりますので、ぜひこのことについても総務省の力添えをお願いしたいと思います。

3点目に感じていることは、我々もこういうからには、しっかりと自治体として、今、

知事様からお話しありましたけれど力を尽くしていきたいという思いが強くなります。特に若い世代は、デジタルネイティブに近い感覚でおられますし、市報で印刷して渡しても見ていないけれど、フェイスブックやLINEだと見ているという時代ですから、むしろそういう方々によりよい行政のことをお伝えしていく、よりよい暮らしを選択していただく、そういった意味での、このIoT、ICTを欠かせないツールだと思っていますので、ぜひそういったことも勘案いただいた取り組みを加速していただきたいと思います。

そういった意味では、ぜひお願いしたいのは、大臣命なのか、総務省命なのか、私は手法は詳しくはわかりませんが、ぜひ総務省のほうから知事会、市長会、町村会のほうへ、総務省としてはIoT実装を本格化するので、それらの3団体においても、しっかりチームなり、団体版タスクフォースなり、ちょっと立ち上げるとか、プロジェクトチームをつくるとか、そういったことのリクエストをしていただいたほうが、我々が戻って報告して、さあ、総長しましょうか、会長どうですかというのも、もちろん1つの方法で努力いたしますけれど、そのような明快なかじと明快なガイドラインを示していただく意味でもしていただくといいのかなと思っています。強力にリクエストを出していただいて結構かと思っています。多くの方々、加えまして、実は議長会、今日はおられませんけれど、議会の皆様も特に若い方ですとかデジタル端末を使う方は、この必要性を強く感じておられますので、ぜひお願いをできればと思っています。

ちょっとまとまりない3点を申し上げましたけれど、このことはほんとうに重要だということを多くの首長さんたち感じておられます。総務省、総務大臣のもとに、ぜひ強力な推進を心から期待をし、我々も汗をかいてまいりたいということをお願いして、意見にかえさせていただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

【須藤座長】 どうもありがとうございました。歌というのは中島みゆきを意味しているんですか。

【横尾構成員】 はい。

【須藤座長】 どうもありがとうございます。

それではどうしてもという方は一言、1分以内でお願いします。よろしいですか、関構成員。

【関構成員】 私は、地域ビジネスのほうの代表ということで意見を3つほど述べさせていただきます。経済効果5兆円を達成するためには、次の3つをぜひ気配り、アプローチの仕方をおと考えております。

1つ目は、まずスピードということになります。考えているより、まずやりましょうということで、まず成果を出すために、やはりこのスピードを重視いただきたいということです。

2つ目は、このI o Tもビジネスもそうなんですが、すべてが完璧にそろうというときにはないんですね。ですから、そろわなくてもやり始めていくという、まさに実装であり、実践であるということで、動きがとても重要だというふうに思います。

3つ目が、今回、自治体様のリーダーシップをしっかりとっていただくということで、座長もお話をいただいたんですが、もう一方で民間が音頭をとっていく、民間型のプロジェクトについても、ぜひ総務省さんのほうにおいてはある意味で認証とか、一定のステージを差し上げるような形をとっていただきますと、民間と自治体の連携がとりやすいと思います。今までですと、どうしても自治体様がステージをつくって、民間が入るという形では、この、先ほど申し上げた、1、2のところが確実性ができませんので、ぜひ民間が先に音頭をとったものについても、自治体が加わっていただけるような背中を押していただければと思います。

以上となります。

【須藤座長】 どうもありがとうございました。

ほか、よろしいでしょうか。どうもありがとうございます。それではこの第1次提言、これを本タスクフォースが総務省に提出する提言とさせていただきます。どうもありがとうございます。

この第1次提言を踏まえまして、高市大臣からお一言いただけますでしょうか。カメラ撮りの方はご準備をいただきたいと思います。

よろしいですか。それでは大臣、よろしく願いいたします。

【高市総務大臣】 皆様、こんにちは。ほんとうに年末の大変ご多用の時期ですが、こうしてお集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。須藤座長をはじめ、構成員の皆様方には今年の9月からという、非常に短い期間の間に熱心にご議論をいただきまして、本日こうして、ロードマップとさらにロードマップ実現のための第1次提言をとりまとめていただきました。心より感謝を申し上げます。

特に生活に身近な分野のI o Tというのは、地域の、また日本の国全体の社会的な課題を解決するということともに、それぞれの地域に雇用と富を生み出していく大きな可能性を秘めたものでございます。今日いただいたロードマップに従って、私たちもスピード感

を持って、しっかりと実装を進めてまいります。

そして気の早い話ですけれども、2020年までのこともイメージとしてつくっていただきましたが、その先を見据えますと、やはりかなり激しい国際競争の中でも、こうして生活に身近な分野のIoTを地域で実装していく、その成功事例がどんどん生まれますと、私は国際展開にもつながっていく、日本にとって大変強い武器になると、このように夢を描いております。さらにもっと高いところを目指しながら、ともに頑張ってもらいたいと存じます。

そして実現のために、何より重要なのは、まさに実現のために必要な予算と、それから相互的な推進体制をつくるということでございます。縦の糸、横の糸、斜めの糸とご提案をいただきましたけれども、ここも早速行動を起こしてまいります。そして大変、第1次提言案の最後に力強いお言葉をいただきました。これからもタスクフォースの皆様には議論を通じて貢献していくという強い決意をいただきまして、大変心強く感じております。

引き続きよろしくご指導をお願いいたします。頑張ってもらいますので、ありがとうございました。

【須藤座長】 どうもありがとうございました。ほんとうに心強いお言葉をいただき、感謝しております。ありがとうございます。

大臣おっしゃったように、2020年以降のことを考えると長期的なことも重要になります。このロードマップに教育の中にプログラミング教育を入れたいただいたことは、私は教育を職務としている人間からすると、非常に感謝申し上げたいと思います。先週、今、東京大学で人工知能を教えているんですけれども、ほとんどの人工知能はパイソンというプログラム言語で動いているんです。駒場の学生にパイソンを習得している者は何人いると言ったらゼロです。ということは、早くやれと、早くやらないと人工知能についていけないぞということを言ったら、私の授業の評価が学生から全部提出されるんですけれど、みんな、ほとんど全員がパイソンをすぐやると書いてありました。そういうことですので、そこら辺も政府も支援していただけると、ほんとうに助かると思います。特に高校生ぐらいから、中学、高校ぐらいから手を打ったほうがいいのかなと思います。ありがとうございます。

それでは、今後の日程について、事務局よりお願いいたします。

【吉田室長】 資料3-4をごらんください。本タスクフォースの今後の進め方につきましては、資料の3-4でお配りしているとおりでございます。

次回会合、第4回は来年2月ごろを予定しておりますが、具体的な日程、場所等につきましては、構成員の皆様と調整の上、改めて事務局のほうからご連絡させていただきます。

【須藤座長】 どうもありがとうございます。

以上で、地域IoT実装推進タスクフォース第3回目の会合を終了させていただきます。本日は皆様、ご多用のところ、ご参集いただきまして、ほんとうにありがとうございました。

どうもありがとうございます。

(以上)